

# かつて八尾は、海だった！—地球生命誕生36億年の歴史

地中から掘り出される「生物の痕跡」、それが化石です。地球上に初めて生命が誕生したのは、今から36億年も前のことです。生物はその時から、自分の痕跡を地層の中に残し続けてきました。

化石を調査・研究することによって、生物の繁栄と絶滅の繰り返しや進化、そして、当時の環境を知ることが出来ます。

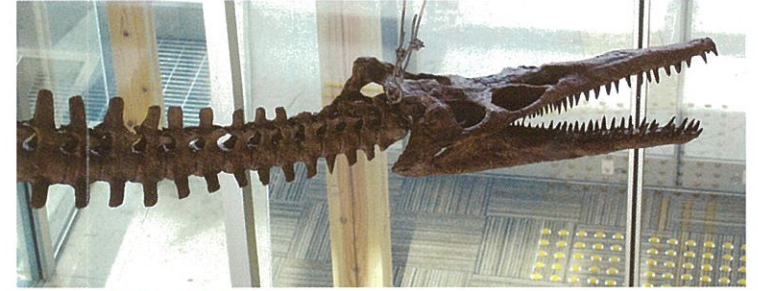
生命の歴史を知ることができる唯一の物的証拠、それが「化石」なのです。

八尾化石資料館「かいいんかん海韻館」では、何百万年前から何億年も前に生きていた生物と会うことが出来ます。過去の生命との不思議な出会いがここから始まるのです。



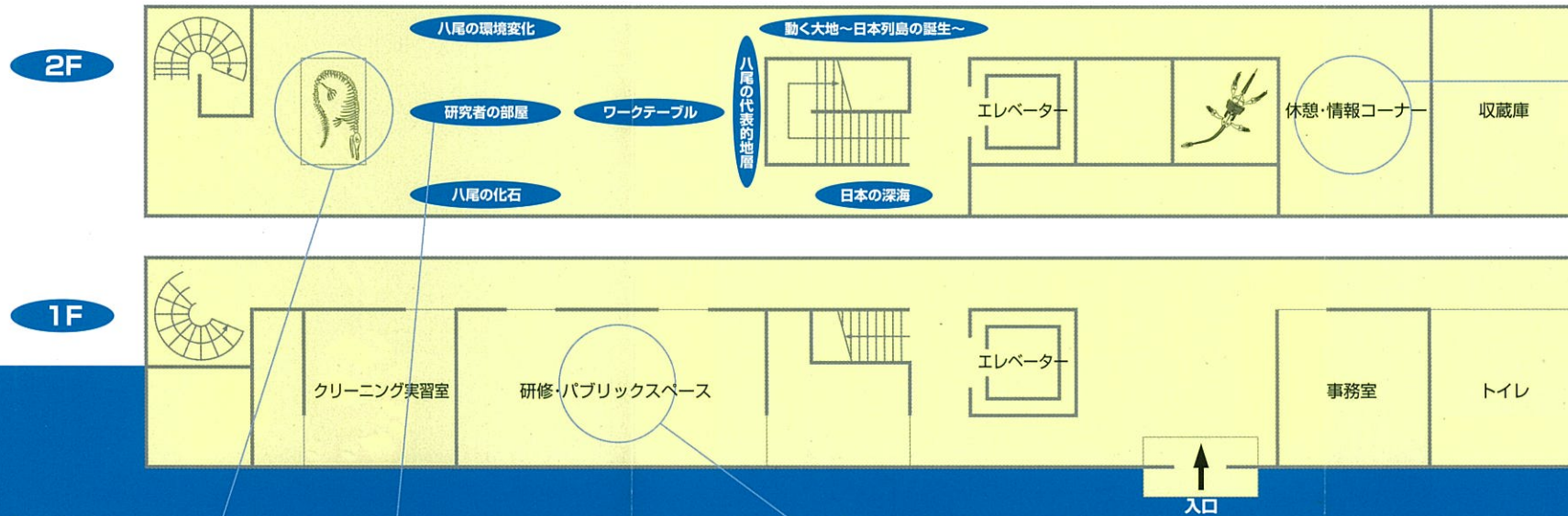
## 八尾の環境変化・八尾の化石

これらのコーナーでは、飛騨片麻岩から始まり、古生代、中生代、新生代などの時代をイメージイラストと、その時代を示す証拠となる示準化石と共に展示していきます。また八尾で発見された「海」に関する化石を地層ごとに分類展示しており、八尾とそこに生息していた生命の変遷の足跡をたどることができます。



## クビナガリュウの化石

両生類から進化して陸上上がったのは虫類で、もう一度海に戻ったのがクビナガリュウです。クビナガリュウは胴が扁平でオールのような形の4本の足がありますが、大きく分けて頭が小さくて首の長いプレシオサウルス類と頭が大きく首の短いプリオサウルス類の2つのグループがあります。桐谷から発見されたクビナガリュウの歯の持ち主はプレシオサウルス類のようです。



**休憩・情報コーナー**  
八尾や化石に関するビデオを紹介しています。



## モササウルスの化石

大型海生は虫類モササウルスの仲間、オオトカゲが一番近い。4本の足はヒレ状になり、ヘビのように体をくねらせて泳いでいたと考えられています。



研究者の部屋



研修室

この建物は富山県内で育ったスギの木（地域材）を使って建てられています。木は、建築部材となっても呼吸し続けます。地域で育った木を、その地域の建築部材として使うことは、耐久性という点で最も適しています。そして解体時に大きな柱や梁は再利用することが可能でさらに長寿命化が期待できます。また、粉殻を充填した断熱パネルを屋根、外壁に使用しています。

〔海韻館は木材産業構造改革整備事業（林野庁補助事業）に基き建てられた木造公共施設です〕

